

新約全書使徒パウロエベラ人に贈れる書
新約全書加拉太書 終

ローマ書一〇二

二八四三

加拉三〇三

ハヤ書一〇六

ト申五〇七三〇三二

チ本五〇卅四、羅後二〇十

リ路十二節二

ル文約一〇二、羅八〇十五、
羅九〇廿五、羅

チ羅後十二、本三〇十七

カリ地三〇六

シ加四〇四、
約十〇十六、西一〇廿

二
三
四
五
六
七
八
九

新約全書使徒パウロエベラ人に贈れる書

福音書の旨に由てイエスキリストは使徒を爲るパウロエベラに於ける聖

徒およびイエスキリストの信する者に書を贈る願くハ我儕の父

なる神および主イエスキリストより恩寵と平康を受よ○神即ち我儕は主

イエスキリストの父ハ頌べきか亦彼キリストに由て諸の靈の恩を以て天

に處にて我儕を已に恵みたり四我儕我儕をして其前に聖く疵あからし

めん爲に世基を置ざりし先より我儕をキリストの中に簡びよるの意のま

ゝにイエスキリストに由て我儕を己の子と爲んことを愛を以て預め定

たり六我儕の恩の榮を讃しめんため也す亦ハ我儕に在われらに賜ふ

所の恩なり七我儕の恩の豊かるに由て彼に在る我儕の血により贖す亦ハ

も罪の赦を得たり八神さまたの智慧と聰明を予へて此恩を我儕に充し

め我儕に其旨の奥義を意のまゝに示せり九これ自ら定め給ひし所亦り

即ち期満るときに至りて或ハ天に在る以ハ地に在る萬物をキリスト

| | |
|---|--------------|
| ノ | 羅一八九節後一〇三 |
| ハ | 羅一〇七 |
| チ | 羅九〇至九三 |
| リ | 羅八六至八八、本八〇、十 |
| レ | 羅八五、五〇、七 |
| エ | 羅二〇八 |
| カ | 羅一〇四 |
| ク | 羅九六 |
| ケ | 羅九二、九三 |
| コ | 羅一〇七、一〇八、一〇九 |

十一 歸せしめんが爲に定め給ひし所あり、萬事を其意のまゝに行ふ者おの
 れの旨に循ひて預じめ我儕を定めキリストに在て嗣子と爲てを待しむ
 十二 これ前にキリストを頼める我儕をして彼の樂の讚美らるゝ事を爲しめ
 十三 なため也、十三爾曹も眞の道すあひち爾曹を救ふ福音を開し後キリストを信
 じ我儕が業を嗣の質ある約束の聖靈を以て印せらるゝ十四 神聖靈をもて印し
 十五 たまふ、其買受し者を救ひ且おのれの樂を顯さんため也、十五是故に我も爾
 曹が主イエスを信することと諸の聖徒を愛することを開て十六 爾曹の爲に
 感謝して已はず常に我が祈禱のとき爾曹を懷ふ十七 我儕の主イエスキリス
 トの神樂の父智慧と黙示の靈を爾曹に賜ひ爾曹をして神を識しめ十八 又た爾
 曹の心の目を明かにし其召を蒙りて有つ所の望と聖徒に賜ふ所の業の榮
 の富と十九 又た信する爾曹に對して行ひ給ふ神の能の極て大あることを知し
 め給はんことを願ふ爾曹の信するハ神の大ある能の感動に由あり二十 即ちキ
 リストに行ひし所にして彼を死より甦らせ諸の政と權威と能力と宰

| | |
|---|--|
| エ | 羅十〇二、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十 |
| カ | 羅一〇六、五、八、本八〇、十 |
| ク | 羅一〇五、七 |
| ケ | 羅一〇二、五、七 |
| コ | 羅一〇一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十 |
| ク | 羅一〇〇、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十 |
| ケ | 羅九十九 |
| コ | 羅九十八、九十九、一〇〇、一〇一、一〇二、一〇三、一〇四、一〇五、一〇六、一〇七、一〇八、一〇九、一〇 |
| カ | 羅九十八、九十九、一〇〇、一〇一、一〇二、一〇三、一〇四、一〇五、一〇六、一〇七、一〇八、一〇九、一〇 |
| ク | 羅九十八、九十九、一〇〇、一〇一、一〇二、一〇三、一〇四、一〇五、一〇六、一〇七、一〇八、一〇九、一〇 |
| コ | 羅九十八、九十九、一〇〇、一〇一、一〇二、一〇三、一〇四、一〇五、一〇六、一〇七、一〇八、一〇九、一〇 |

治また此世のみならん來らんとする世にも凡て稱ふる所の名の上に置き
 天の處にて己の右に坐せしめし能なり三 又た一切の物を彼の足下お置せ
 た彼を一切た者の上お首となし此を教會に賜ひて其首と爲り三 教會ハ彼
 の身體なり萬物を以て萬物に満しむる者の満る所なり
 四 爾曹神は愆と罪に死し所の爾曹をも生し給へりニ 爾曹會て斯世の風俗
 に循ひ彼の愆と罪を行ひて日を送り亦空中にわる諸權を總宰とせる者すあ
 ハち信じ從ハざる者の中に今はたらく所の靈に循へり三 我儕もみな會て
 其中にをり肉の愆に循ひて日を送り肉と心の愆を任をなし他人の如く本
 性にして怒の子なりき四 然るに矜恤に富る神われらを愛する所の大なる
 愛に緣五 罪に死し時にすら我儕をキリストと借に生し(なんぢら思に由
 て救れし也)又イエスキリストに在われらを彼と借に甦らせ共に天の處
 に坐せしめ給へり七 これ今より後の世々キリストイエスの中に我儕に
 施す所の仁慈をもて其恩の勝て豊なることを顯さん爲なりハ なんぢら思に

| | | |
|----|---|-------|
| 九 | ハ | 經三卷廿二 |
| | イ | 經三卷廿七 |
| | ロ | 經三卷廿八 |
| 十 | ハ | 經三卷廿五 |
| | ニ | 經三卷廿七 |
| | シ | 經三卷廿八 |
| 十一 | ハ | 經三卷廿五 |
| | ニ | 經三卷廿七 |
| | シ | 經三卷廿八 |
| 十二 | ハ | 經三卷廿五 |
| | ニ | 經三卷廿七 |
| | シ | 經三卷廿八 |
| 十三 | ハ | 經三卷廿五 |
| | ニ | 經三卷廿七 |
| | シ | 經三卷廿八 |
| 十四 | ハ | 經三卷廿五 |
| | ニ | 經三卷廿七 |
| | シ | 經三卷廿八 |
| 十五 | ハ | 經三卷廿五 |
| | ニ | 經三卷廿七 |
| | シ | 經三卷廿八 |
| 十六 | ハ | 經三卷廿五 |
| | ニ | 經三卷廿七 |
| | シ | 經三卷廿八 |
| 十七 | ハ | 經三卷廿五 |
| | ニ | 經三卷廿七 |
| | シ | 經三卷廿八 |
| 十八 | ハ | 經三卷廿五 |
| | ニ | 經三卷廿七 |
| | シ | 經三卷廿八 |

由て救を得て此の如なる人語る者ならん爲なり。我憐ハ神の造り給へる者なり。即ち此の如なる人語る者ならん爲なり。我憐ハ神の造り給へる者なり。即ち我憐をして善事を行はしめん爲にキリストイエスの中に造り給へり。此の事ハ神われらに行はせんとして預じめ備へ給ひし所なり。是故に爾曹心に憶ふ肉に由て異邦人なる爾曹手を以て肉に行へる劇禮の者に不劇禮と稱られし者なれど、其時ハ爾曹キリスト無ニスラエルの籍に非ざる異邦人あして夫の約束あつて結び給ひし契約に與り、亦く望み及世に在て神なき者ありき。然然今ハキリストイエスに在るバ彙に遠かりし爾曹イエスの血に由て近けり。我憐の和なり。二者をひとし、寛仇と成る。隔の籬を毀ち、律法の中に命する所の法を其肉體にて廢せり。蓋二者を己に聯ね之を一の新しき人に造りて和がしめ、十字架を以て寛仇を滅し、又之を以て二者を一體となして神と和がしめ、爲あり。又かれ來りて福音を傳へ、爾曹遠かりし者および近き者にも、和平を宣たり。大うれ彼に由て我

| | | |
|-----|---|-------|
| 十九 | ハ | 經三卷廿九 |
| | ニ | 經三卷卅一 |
| | シ | 經三卷卅二 |
| 二十 | ハ | 經三卷卅三 |
| | ニ | 經三卷卅五 |
| | シ | 經三卷卅六 |
| 二十一 | ハ | 經三卷卅三 |
| | ニ | 經三卷卅五 |
| | シ | 經三卷卅六 |
| 二十二 | ハ | 經三卷卅三 |
| | ニ | 經三卷卅五 |
| | シ | 經三卷卅六 |
| 二十三 | ハ | 經三卷卅三 |
| | ニ | 經三卷卅五 |
| | シ | 經三卷卅六 |
| 二十四 | ハ | 經三卷卅三 |
| | ニ | 經三卷卅五 |
| | シ | 經三卷卅六 |
| 二十五 | ハ | 經三卷卅三 |
| | ニ | 經三卷卅五 |
| | シ | 經三卷卅六 |
| 二十六 | ハ | 經三卷卅三 |
| | ニ | 經三卷卅五 |
| | シ | 經三卷卅六 |
| 二十七 | ハ | 經三卷卅三 |
| | ニ | 經三卷卅五 |
| | シ | 經三卷卅六 |
| 二十八 | ハ | 經三卷卅三 |
| | ニ | 經三卷卅五 |
| | シ | 經三卷卅六 |
| 二十九 | ハ | 經三卷卅三 |
| | ニ | 經三卷卅五 |
| | シ | 經三卷卅六 |
| 三十 | ハ | 經三卷卅三 |
| | ニ | 經三卷卅五 |
| | シ | 經三卷卅六 |
| 三十一 | ハ | 經三卷卅三 |
| | ニ | 經三卷卅五 |
| | シ | 經三卷卅六 |
| 三十二 | ハ | 經三卷卅三 |
| | ニ | 經三卷卅五 |
| | シ | 經三卷卅六 |
| 三十三 | ハ | 經三卷卅三 |
| | ニ | 經三卷卅五 |
| | シ | 經三卷卅六 |
| 三十四 | ハ | 經三卷卅三 |
| | ニ | 經三卷卅五 |
| | シ | 經三卷卅六 |
| 三十五 | ハ | 經三卷卅三 |
| | ニ | 經三卷卅五 |
| | シ | 經三卷卅六 |
| 三十六 | ハ | 經三卷卅三 |
| | ニ | 經三卷卅五 |
| | シ | 經三卷卅六 |
| 三十七 | ハ | 經三卷卅三 |
| | ニ | 經三卷卅五 |
| | シ | 經三卷卅六 |
| 三十八 | ハ | 經三卷卅三 |
| | ニ | 經三卷卅五 |
| | シ | 經三卷卅六 |
| 三十九 | ハ | 經三卷卅三 |
| | ニ | 經三卷卅五 |
| | シ | 經三卷卅六 |
| 四十 | ハ | 經三卷卅三 |
| | ニ | 經三卷卅五 |
| | シ | 經三卷卅六 |
| 四十一 | ハ | 經三卷卅三 |
| | ニ | 經三卷卅五 |
| | シ | 經三卷卅六 |
| 四十二 | ハ | 經三卷卅三 |
| | ニ | 經三卷卅五 |
| | シ | 經三卷卅六 |
| 四十三 | ハ | 經三卷卅三 |
| | ニ | 經三卷卅五 |
| | シ | 經三卷卅六 |
| 四十四 | ハ | 經三卷卅三 |
| | ニ | 經三卷卅五 |
| | シ | 經三卷卅六 |
| 四十五 | ハ | 經三卷卅三 |
| | ニ | 經三卷卅五 |
| | シ | 經三卷卅六 |
| 四十六 | ハ | 經三卷卅三 |
| | ニ | 經三卷卅五 |
| | シ | 經三卷卅六 |
| 四十七 | ハ | 經三卷卅三 |
| | ニ | 經三卷卅五 |
| | シ | 經三卷卅六 |
| 四十八 | ハ | 經三卷卅三 |
| | ニ | 經三卷卅五 |
| | シ | 經三卷卅六 |
| 四十九 | ハ | 經三卷卅三 |
| | ニ | 經三卷卅五 |
| | シ | 經三卷卅六 |
| 五十 | ハ | 經三卷卅三 |
| | ニ | 經三卷卅五 |
| | シ | 經三卷卅六 |

儕二者一の靈に在て父に近く事を得たり。是故に爾曹今より賓旅に非ざる亦寄寓者に非ざる聖徒と同じ。那また神の家に属する者なり。且、なんぢら使徒と預言者の基の上に建ち、キリスト自ら其隅の首石とされり。三、全屋みな構合て彼の中に在り。く、に培て聖聖主の中に成なり。三、爾曹も、偕に彼の中お建られたり。是靈に由て神の居給ふ處となるべき爲なり。爾曹は是故に爾曹異邦人の爲にキリストイエスの囚人となれる我ハパウロ爾曹の爲に祈る。爾曹の爲に神の我に賜ひし恩ハ、爾曹すでに聞し。亦らん。即ち黙示をもて、爾曹を我に示せる。亦、我は、前に録せる如し。爾曹之れを讀べ之に由て、我キリストの爾曹を曉れることぞ。知べし。五、前代に之を人に知しめし。ハ、今靈を以て、聖使徒と預言者に示すが如ならざる。六、人の動を以て、我に賜ひし恩によりて、此福音の役者となれり。八、諸の聖徒の中に

| | |
|----|----------------|
| 九 | 羅馬十五〇九 羅前一〇 |
| 十 | 三十五 羅前一〇 羅前一〇 |
| 十一 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 十二 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 十三 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 十四 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 十五 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 十六 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 十七 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 十八 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 十九 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |

九 最微者よりも微き我に此恩を賜ひて測ることを能はざるキリストの富を異邦人に傳へ 且イエスキリストを以て萬物を造りし神の中に世の始より以來かくれたる奧義如何を衆の人に悟らしむ 此教會を以て天の處にある政を執る者と權威を有る者に神の萬殊の智慧をかしめん爲なり 此ハ神世々の先より定め給ひし旨に循へる也この旨ハ我儕の主キリストイエスに由て成就せり 我儕キリストイエスに在て之を信するにより應ぜざることを得た憚ることなくして神に近くとを得たり 是故に我ならざらに求わが爾曹の爲に受る患難により怯るゝ勿れ此あなたらの榮なり 此に緣て我儕の主イエスキリストの父即ち天と地に在る諸族の彼に由て名を得し者の父に跪きて 願ふハ其榮の富に循ひ其靈をもて爾曹の衷の人を剛健にし 又キリストをして信仰にして 爾曹の心に居しめ 爾曹をして 爾曹にして 愛に根し 愛を基として 諸の聖徒と偖に測る可らざるキリストの愛を知らうの潤さ長さ 深さ高さを 識らしめ 又すべて神に滿るものを

| | |
|-----|----------------|
| 十 | 羅馬十五〇九 羅前一〇 |
| 十一 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 十二 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 十三 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 十四 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 十五 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 十六 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 十七 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 十八 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 十九 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 二十 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 二十一 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 二十二 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 二十三 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 二十四 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 二十五 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 二十六 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 二十七 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 二十八 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 二十九 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 三十 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 三十一 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 三十二 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 三十三 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 三十四 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 三十五 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 三十六 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 三十七 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 三十八 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 三十九 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 四十 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 四十一 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 四十二 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 四十三 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 四十四 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 四十五 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 四十六 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 四十七 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 四十八 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 四十九 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 五十 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 五十一 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 五十二 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 五十三 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 五十四 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 五十五 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 五十六 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 五十七 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 五十八 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 五十九 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 六十 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 六十一 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 六十二 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 六十三 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 六十四 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 六十五 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 六十六 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 六十七 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 六十八 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 六十九 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 七十 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 七十一 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 七十二 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 七十三 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 七十四 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 七十五 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 七十六 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 七十七 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 七十八 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 七十九 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 八十 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 八十一 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 八十二 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 八十三 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 八十四 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 八十五 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 八十六 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 八十七 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 八十八 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 八十九 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 九十 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 九十一 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 九十二 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 九十三 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 九十四 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 九十五 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 九十六 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 九十七 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 九十八 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 九十九 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |
| 一百 | 羅前一〇 羅前一〇 羅前一〇 |

十 爾曹に滿しめ 給はんこと也 我儕の中に 行ふ能力に 循ひて 我儕の 求るところ 思ふ所より 甚く 過れる 事を行 得る者お 三キリストイエスに により 教會の中に て 世々 窮なく 榮を 歸せん ことを アマン 然れば 主に 在て 囚人となれる 我な ながらに 勸な ながら 召れし 君に 符て 行はん こと を 悉く 謙遜と 柔和と 寛容なる 心 を 以て 行ひ 愛を 以て 互に 忍び 平和と といふ 繫の中に 務て 靈の 賜ふ 所の一なる を 守るべし 體ハ 一靈ハ 一なり 爾曹の 召れて 有つ 所の 望の一なる が 如し 主一信仰ハ 一なり 神す 亦ハ 萬人の 父一なり 彼ハ 萬人の上 に あり 萬人に 貫き 萬人の中に 在て 各人に キリストの 賜ふ 所の 量に 循ひて 恩を 賜ふ べし 是故に 云ること 有かれ 上に 昇し とき 據にする 者 を 擲にし 賜を 人に 給へり 且 巴の上に 昇れり 且 謂ハ 先地の 下に 降りし に 非ずや 降りし 者ハ 即ち 諸の 天の上に 昇りし 者なり 彼より 彼の 物に 滿ん だす ことの 賜ひし 所ハ 使徒 あり 預言者 あり 傳道者 あり 牧師 あり 牧師 あり 士 此れ 聖徒を 全ふし

| | | | |
|-----|-----|-----|-----|
| キ | 四〇六 | キ | 四〇六 |
| エ | 四〇一 | エ | 四〇一 |
| ス | 三〇五 | ス | 三〇五 |
| シ | 三〇七 | シ | 三〇七 |
| ヒ | 三〇三 | ヒ | 三〇三 |
| ハ | 三〇二 | ハ | 三〇二 |
| ニ | 三〇一 | ニ | 三〇一 |
| 三 | 三〇〇 | 三 | 三〇〇 |
| 四 | 二九九 | 四 | 二九九 |
| 五 | 二九八 | 五 | 二九八 |
| 六 | 二九七 | 六 | 二九七 |
| 七 | 二九六 | 七 | 二九六 |
| 八 | 二九五 | 八 | 二九五 |
| 九 | 二九四 | 九 | 二九四 |
| 十 | 二九三 | 十 | 二九三 |
| 十一 | 二九二 | 十一 | 二九二 |
| 十二 | 二九一 | 十二 | 二九一 |
| 十三 | 二九〇 | 十三 | 二九〇 |
| 十四 | 二八九 | 十四 | 二八九 |
| 十五 | 二八八 | 十五 | 二八八 |
| 十六 | 二八七 | 十六 | 二八七 |
| 十七 | 二八六 | 十七 | 二八六 |
| 十八 | 二八五 | 十八 | 二八五 |
| 十九 | 二八四 | 十九 | 二八四 |
| 二十 | 二八三 | 二十 | 二八三 |
| 二十一 | 二八二 | 二十一 | 二八二 |
| 二十二 | 二八一 | 二十二 | 二八一 |
| 二十三 | 二八〇 | 二十三 | 二八〇 |
| 二十四 | 二七九 | 二十四 | 二七九 |
| 二十五 | 二七八 | 二十五 | 二七八 |
| 二十六 | 二七七 | 二十六 | 二七七 |
| 二十七 | 二七六 | 二十七 | 二七六 |
| 二十八 | 二七五 | 二十八 | 二七五 |
| 二十九 | 二七四 | 二十九 | 二七四 |
| 三十 | 二七三 | 三十 | 二七三 |
| 三十一 | 二七二 | 三十一 | 二七二 |
| 三十二 | 二七一 | 三十二 | 二七一 |
| 三十三 | 二七〇 | 三十三 | 二七〇 |
| 三十四 | 二六九 | 三十四 | 二六九 |
| 三十五 | 二六八 | 三十五 | 二六八 |
| 三十六 | 二六七 | 三十六 | 二六七 |
| 三十七 | 二六六 | 三十七 | 二六六 |
| 三十八 | 二六五 | 三十八 | 二六五 |
| 三十九 | 二六四 | 三十九 | 二六四 |
| 四十 | 二六三 | 四十 | 二六三 |
| 四十一 | 二六二 | 四十一 | 二六二 |
| 四十二 | 二六一 | 四十二 | 二六一 |
| 四十三 | 二六〇 | 四十三 | 二六〇 |
| 四十四 | 二五九 | 四十四 | 二五九 |
| 四十五 | 二五八 | 四十五 | 二五八 |
| 四十六 | 二五七 | 四十六 | 二五七 |
| 四十七 | 二五六 | 四十七 | 二五六 |
| 四十八 | 二五五 | 四十八 | 二五五 |
| 四十九 | 二五四 | 四十九 | 二五四 |
| 五十 | 二五三 | 五十 | 二五三 |

言と虚言を言ふは宜からざる事なり譬も謝することすべし蓋す
 べて姦淫するもの汚穢たる者および貪婪者すなはち偶像を拜む者のキリ
 ストと神との國を嗣を得ざることをハ爾曹知パなりなんぢら人の虚言に
 欺かることを勿れ神の怒これらの事に因て背逆者に至るなり是故に彼
 等に與すること勿れハ爾曹もと暗かりしが今主に在て光れり光の子輩の
 如く行ふべし蓋光の結ぶ所の果ハ諸の仁にとどき義にとどき誠實の中にあ
 れパなり主の愧ぶ所を辨へて之を行ふべしなんぢらから果を結ばざる暗
 行に與することなく反て之を責べし彼等が隠にて行ふ所の事の之を言
 だにも愧べき事なり主凡て責を受べきことハ光に由て顯るくなり蓋すべ
 てを顯す者ハ光なれば也是故に云る言わり探かる者も目を醒し死より
 起よキリスト爾曹照さん然ハ爾曹つゝしみて行を堅くすべし智らざる
 者の如くせず智者の如くし其機を窺ふべし是時惡けれバ也是故に愚な
 る者も爲となく主の旨ハ如何にぞ識るべしまた酒に酔て勿れ之を

ル 羅馬十(五)章第一節
三十二(三十三)節
子 三章二(三)節
子 三章五(六)節
カ 一(二)節
子 三章五(六)節
ル 一(二)節
子 三章五(六)節
カ 一(二)節

十一 兄弟よ主および其大なる能に頼て剛健なるべし
十二 御ん爲に神の武具を以て裝ふべし
十三 また斯世の幽暗を卒送る者また天の處に
十四 神の武具を取れば是れは日に出でて敵を
十五 御ん爲に神の武具を以て裝ふべし
十六 兄弟よ主および其大なる能に頼て剛健なるべし

兄弟よ主および其大なる能に頼て剛健なるべし
御ん爲に神の武具を以て裝ふべし
また斯世の幽暗を卒送る者また天の處に
神の武具を取れば是れは日に出でて敵を
御ん爲に神の武具を以て裝ふべし
兄弟よ主および其大なる能に頼て剛健なるべし
兄弟よ主および其大なる能に頼て剛健なるべし
兄弟よ主および其大なる能に頼て剛健なるべし
兄弟よ主および其大なる能に頼て剛健なるべし
兄弟よ主および其大なる能に頼て剛健なるべし
兄弟よ主および其大なる能に頼て剛健なるべし

下 一(二)節
子 三章五(六)節
カ 一(二)節
ル 一(二)節
子 三章五(六)節
カ 一(二)節
ル 一(二)節
子 三章五(六)節

三三 離れ其婦に肥ひ二れもの一體にあるべし
三三 離れ其婦に肥ひ二れもの一體にあるべし
三三 離れ其婦に肥ひ二れもの一體にあるべし
三三 離れ其婦に肥ひ二れもの一體にあるべし
三三 離れ其婦に肥ひ二れもの一體にあるべし
三三 離れ其婦に肥ひ二れもの一體にあるべし

離れ其婦に肥ひ二れもの一體にあるべし
兄弟よ主および其大なる能に頼て剛健なるべし
御ん爲に神の武具を以て裝ふべし
また斯世の幽暗を卒送る者また天の處に
神の武具を取れば是れは日に出でて敵を
御ん爲に神の武具を以て裝ふべし
兄弟よ主および其大なる能に頼て剛健なるべし
兄弟よ主および其大なる能に頼て剛健なるべし
兄弟よ主および其大なる能に頼て剛健なるべし
兄弟よ主および其大なる能に頼て剛健なるべし
兄弟よ主および其大なる能に頼て剛健なるべし

イ 使徒廿〇二
ハ 新約二八 提前二 羅 一 五
ホ ニ 提前二 五
ヘ 西一四
ト 羅八 廿八 提前八 〇八 羅前 一 〇八
ナリ 提前七 〇三
リ 羅前 五 〇五 廿四 提前 一 〇八
レ 羅前 三 五 〇三 二

二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一

新約全書使徒パウロピリビ人に贈れる書

キリストイエスの僕パウロとテモテピリビ人住どころのキリスト
イエスに在すべての聖徒及び凡ての監督執事に書を連る 願くぞ爾曹我
らの交なる神及び主イエスキリストより恩寵と平康を受よ 願くぞ我神
始の日より今に至るまで常に福音に與るに縁 われ爾曹を思ふに我神
に謝す 又恒に爾曹衆の爲に祈求ふに欣びて求ふ 爾曹の心の中に
善工を始し者之れを主イエスキリストの日までに全うすべしと我ふかく
信ず 此の如く我が愚ふの宜なり爾曹の心に我心に在に縁うの我が縲縛
お在るとき及び福音を辨明し之を堅固する時も爾曹の皆我と偕に我が受る
思に與れ 我キリストイエスの心を以て爾曹衆を懇慕ふことに就て
ハ其證を存す者の神あり 又た爾曹の愛智識と諸の智慧の中に益 大に
爲て最も勝たる所を辨へ知り 主イエスキリストに由る義の果を滿せて神
の榮光と讚美を顯はしキリストの日の爲に潔して過なからんとを祈る

ホ 提前五 〇四
キ 提前五 〇三 四
ニ 提前五 〇二

三 四

めん爲なり 願くハ兄弟交なる神と主イエスキリストより信仰に加て平
康と愛を得んことを 願くハ我憐の主イエスキリストを變らずして愛す
る凡の者に思わらんことをアメン

新約全書以弗所書 終